

2015年09月26日

日本スポーツ体育健康科学学術連合第1回大会 シンポジウム報告書

日本運動疫学会 理事長 種田行男

この度は、貴重な機会を提供していただき、ありがとうございました。
標記につきまして、下記、今回のシンポジウム内容を報告させていただきます。

記

1. 企画報告

日本運動疫学会は、我が国における運動および身体活動と健康に関連する研究を発展させ、研究成果を社会に還元し、国民の身体活動促進に寄与することを目的に学術活動を展開している。

日本運動疫学会の会員が学術研究に使用する「疫学的研究手法」は「ヒト集団を対象に、因果関係を明らかにする手法」であり、スポーツ体育学研究がめざす成果（健康に限らず、障害予防、人間性向上、スキル上達、勝利など）と、その成果をもたらす要素（原因）の関係を明らかにし、望ましい結果を得るための科学的根拠を示すことができる手法である。しかしながら、スポーツ体育系学術分野において「疫学的研究手法」は広く知られていない状況である。そこで日本運動疫学会は、疫学的研究手法の概要を紹介するとともに、スポーツ体育学研究に疫学的研究手法を取り入れる方法を、事例を交えて参加者に伝え、多くのスポーツ体育学研究者が疫学的研究手法を取り入れるきっかけにすることを目的にシンポジウムを開催した。

2. 企画内容

- (1) テーマ： スポーツ体育学研究における疫学的研究手法の使い方
- (2) 座長： 種田 行男(中京大学)、内藤 義彦(武庫川女子大学)
- (3) 内容
 - 1) スポーツ体育学と運動疫学
澤田 亨 (医薬基盤・健康・栄養研究所)
 - 2) 疫学的研究手法の概要
中田 由夫 (筑波大学)
 - 3) 「どうすればケガをしないか」を明らかにすることを目指す研究手法
笹井 浩行 (筑波大学)
 - 4) 「どうすれば勝てるか・スキルアップできるか」を明らかにすることを目指す研究手法
門間 陽樹 (東北大学)
 - 5) 疫学研究フィールドとしての大学体育
木内 敦詞 (筑波大学)
 - 6) 疫学的研究手法を取り入れたフィットネスクラブの利用者増加対策
菊賀 信雅 (株式会社プロフィットジャパン)

以上